

おしる 「上山城」からのたより 初秋・第146号

ちよつと昔の上山の風景

(公財) 上山城郷土資料館学芸員 長南伸治

みなさんにとつて「ちよつと昔」とは、何年ぐらい前を指すでしょうか? 「百年前? 五十年前? はたまた昨日?」。人それぞれ感覚は異なることでしょうが、

今回は著者感覚の「ちよつと昔」の上山の姿を捉えた写真を二点(全て上山城収蔵資料)をご紹介します。

【写真①】は、大正時代(約百年前)と思われませんが、「鶴の休み石」(現在の上市町町地区)付近を捉えた写真となります。「鶴の休み石」とは長祿二(一四五八)年、肥前の国(現在の佐賀県)からやって来た旅の僧

月秀が沼に傷ついた脚をひたす鶴を目撃し温泉を発見した場所として有名です。写真からは、撮影当時、その場所は、子供たちの格好の「たまり場」となっていた様



写真①



写真②

(現在の上市市金瓶地区)を捉えた写真です。橋の向こうには蔵王連峰と空があるだけのシンプルな風景ですが、その雄大さに、ついつい引き込まれてしまいそうになつてしまいます。

最後に、現在、上山城では「ちよつと昔」の上山の風景写真を募集しています。「ちよつと昔」とは、みなさん各自の感覚で問題ありません。写真は十月中旬から開催の企画展で展示させていただきます(優秀作品に選ばれると賞品有)。ご興味をお持ちの方は上山城までご連絡願います。

子がうかがえます。左上の今は無き「五助旅館」の窓から女中さんらしき人が子供たちを見守る姿が微笑ましいところですよ。

【写真②】は、昭和十年代(約八十年前)の「龍王橋」

【常設展示室から】第二展示室の藤井松平、幕末、第二次世界大戦の三コーナーを展示替しました。展示替にあたり、東北芸術工科大学の博物館実習生にご協力いただきました。感謝申し上げます。